

有楽町マリオンにおける熱源設備高効率化への取り組み

岡村 明彦 (おかむら あきひこ) 高砂熱学工業(株) 産業空調事業本部 環境エネルギー部長
前田 博 (まえだ ひろし) 有楽町センタービル管理(株) 取締役 施設部長

1. はじめに

地球温暖化防止への取り組みについて各方面で検討・議論がされている中、数年にわたり有楽町マリオン（有楽町センタービル）における空調熱源設備の高効率化を計画・推進してきた。今般、一連の計画が完了したのでここに概要を報告する。

2. 有楽町マリオンとは

有楽町マリオン（有楽町センタービル）は東京・有楽町の駅前に位置し、2つの百貨店、5つの映画館、ホール、レストラン、銀行を有する複合ビルであり、文字通り有楽町の街のシンボルである。当ビルは「日劇」、「ピカデリー」、「朝日新聞」の跡地再開発として1984年に竣工した。（図1）に再開発前の駅前のイメージを、（図2）に現在の建物外観を、また建物概要を（表1）に示す。



図1 再開発前の駅前イメージ



図2 現在の建物外観

表1 建物概要

竣工年度	1984年
設計	竹中工務店
設計監理	三菱地所
施工	竹中工務店
延床面積	89,515m ²
構造	S造、SRC造、RC造 地上14階、地下4階

愛称の「マリオン」には、建築用語の「方立（ほうだて）」という意味がある。方立とは、外壁の窓と窓などを仕切る縦型の枠材のことで、有楽町マリオンのデザイン的なポイントになっている。

有楽町マリオンは、建設当初から大規模水蓄熱槽、熱回収ヒートポンプといった省エネルギーや環境保全に配慮した設備を導入している。今般、竣工後20年以上が経過ということもあり、熱源設備の老朽化への対策が必要となった。